

陽子線に取り組んだ 10年間の経験値が とても、心強い。

福井県医師会 池端幸彦会長



陽子線がん治療の 草分けとして 実績を重ねてきました。

福井県立病院 橋爪泰夫院長

※新型コロナウイルス感染症対策を行い、撮影時のマスクを外しました。

福井県立病院 陽子線がん治療センター 開設10周年記念対談

陽子線がん治療センターのさらなる活用に向けて

2011年に開設された県立病院陽子線がん治療センターは、北陸唯一の粒子線がん治療施設として、開設以来約1,700人に治療を行ってきました。体に優しく高い治療効果が期待できる陽子線治療を、より高精度に行うための技術の研究にも積極的。4月からは公的医療保険診療の適用部位が拡大され、地域医療で果たす役割もさらに高まります。

検診控えの影に隠れて がんが進行している？

橋爪 新型コロナウイルス感染症の影響で、2020、21年度とも当院では患者数が減少しています。例年は50%程度だった県内のがん検診受診率も、20年度は約42%と低く、特に患者数の多い肺がん、胃がんで低くなってしまいました。県内5つのがん診療連携拠点病院のがん患者数も初発件数、手術数とも20年にはガクッと落ちました。2年前にコロナの県内第一例が出て第一波が始まって以降、当院の医療現場も未経験ゾーンにいきなり突入し、健康診断センターを一時的に閉鎖しなければならぬ時期もありました。

池端 第一波の時、県立病院が先頭を切って重症者をみていただけたことが、今につながっていると思います。本当にお礼を申し上げたい。しかし、第一波が落ち着いた時、はたと気付いたのは「健康診断ができていない」ということです。そこで県医師会では20年6月に健康診断や人間ドックの受診を呼びかけるメッセージを出しました。最近の受診者数はコロナ前の水準に戻りつつありますが、完全には戻りきっていません。がんの発見率、治療率はこんな水準ではないと思います。

橋爪 当院では安心して健康診断やがん検診を受けていただくため感染対策を徹底しており、受診者数もコロナ前の水準に戻りつつあります。しかし当院でも、がん検診が受けられずに進行した状態で発見されたという症例が増えており、改めて早期発見、早期治療の重要性を実感しています。

池端 隠れてがんが進行していたり、重症化したりしている患者さんは確率的にもっと多いはず。新型コロナウイルスの陰に隠れて、がん検診を受けられずに進行したがんではないかと思つては、たくさんおられるのではないかと思っています。県民の命を守るためには、十分なコロナ対策とともに、きちんと検診を行う。両刀遣いで臨まないといけないと思います。

最先端医療を積極導入、 陽子線も保険適用拡大へ。

橋爪 県立病院の新年度からの中期経営計画では、新興感染症対策を柱として、新興感染症病床の常設や感染症内科の新設などに取り組まれます。併せて、当院の本丸である高度急性期医療の価値向上のため、最先端医療による治療の選択を広く広げていきます。例えば、davitin(ダビチン)などロボット支援手術を推進します。また、がんのゲノム医療は、標準医療で治るのが難しい患者さんに対して、一人ひとりにあったお薬を選ぶ目的で注目されています。

池端 ダビチンが私が大学院時代に国内最初の導入に少し関わった経験があり、思い入れが深い治療です。患者さんの身体への負担も少なく、技術的にも標準化できます。ゲノム医療も、診療報酬体系で高く評価しようという流れになっていて、遺伝外来を開設していただけたことに敬意を表します。県民のた

めに、医療の最先端を目指されていることには大いに期待します。

橋爪 今日のメインの話題となる陽子線がん治療は、4月から公的医療保険の対象となるがんの範囲が広がり、患者さんがより治療を受けやすくなります。しかし21年度はコロナの影響で利用者が例年より少なくなりました。また県内の利用者ほとんどが嶺北の患者さんなので、今後は嶺南の医療機関との連携も強めていきたいと考えています。

池端 新型コロナウイルスへの対応を通じ、県内では基幹病院や地域の医療機関との風通しが良くなることも、互いの機能を知り合うことができ、病院間の連携がしやすくなったように感じています。これをチャンスに陽子線について全県的に患者の掘り起こしをしようという方向性を共有できるとよいですね。高齢者でも副作用のリスクが少なく治療できるという利点もありがたく感じます。

橋爪 当院の強みである精密治療の効果を高め、副作用を減らすため、前立腺がんの治療では、21年より前立腺と直腸の間に「ハイドロゲル」というものを注入し、陽子線が直腸に与える副作用を低減する治療法を導入しています。これにより1回の照射線量を増やすことが可能となるため、将来的には、通常2カ月を要する前立腺がんの陽子線治療が1カ月で済むようになり、乳がんの治療でも、県工業技術センターの協力を得て3Dプリンターで製作した高精度な固定具の開発を進めています。がんの種類別では、小児がんの治療実績が増えています。

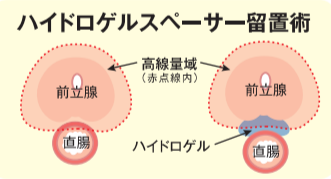
小児がん治療で、 陽子線にメリット。

池端 全国に先駆けて陽子線に取り組んできた10年間の経験を感じます。小児がんについての情報は、全国の患者さんの保護者も求めていると思います。

橋爪 小児がんについては福井大学病院の小児科と県立病院の小児科、陽子線がん治療センターで「小児がん専門チーム」を作り、組

陽子線治療の対象となるがん

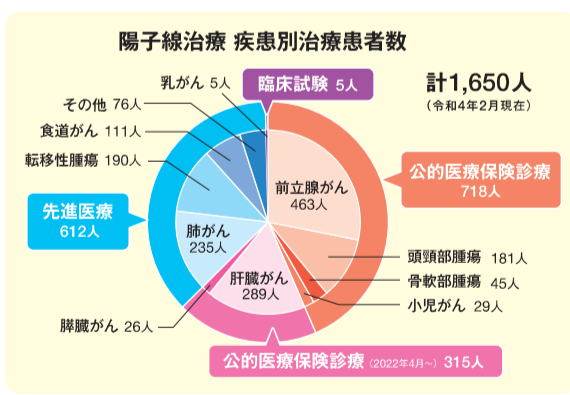
公的医療保険診療 <ul style="list-style-type: none"> 前立腺がん 頭頸部腫瘍 骨軟部腫瘍 小児がん 	先進医療 <ul style="list-style-type: none"> 肺がん 食道がん 脳・脊髄腫瘍 転移性腫瘍(3個まで)
2022年4月～ <ul style="list-style-type: none"> 肝臓がん(大型の肝細胞がん、肝内胆管がん) 膵臓がん 大腸がん(再発) 	臨床試験 <ul style="list-style-type: none"> 乳がん



織の枠を越えて連携し治療に当たっています。金沢大の小児科や福井大の脳外科も一体となって動いています。全国で小児の陽子線治療ができるのは数施設のみで、このような病院の枠を超えた協力体制があるのは福井だけ。小児への陽子線がん治療は、成長障害や二次発がんリスクが軽減できるという利点があり、今後ますます重要性が高まると考えています。

池端 症例が増えるほど、治療の精度が高まります。小児の陽子線治療は県立病院の得意分野として差別化できます。ぜひ推進してください。

橋爪 陽子線がん治療は、局所のがん病巣だけを攻撃し、周囲の正常な組織へのダメージを抑えることができます。小児や高齢者など、手術や抗がん剤治療が難しい場合でも陽子線治療という選択肢があるのは、患者さんにとって大きなメリットだと思います。一度手術をした後の再発で、2回目の手術が困難な患者さんにとって、次の一手になることもあります。



患者一人ひとりに、 寄り添えるがん治療を。

池端 がん治療に携わる県内全ての医療機関が、県立病院の陽子線という選択肢を認識してくれるといいと思います。県立病院が高度で先鋭的な医療を頑張っていたら、と併せて、我々かかりつけ医は回復期や慢性期のケアを受け持つとともに、県民の皆さんが健康の不安を感じた時に相談を受けて適切な医療につなげる「ゲートキーパー」的機能もしっかり務める必要があります。こうした医療機関同士の連携と機能分化のため、互いに勉強しながら県内のよりよい医療体制づくりのために頑張りたいと思います。

橋爪 がん医療は全体的なポトムアップが進み、患者それぞれの症例に合った高度で、専門家がチームとなり、手術や薬物、放射線などを組み合わせて行う、集学的な治療の需要はますます大きくなってきています。県立病院ではこれからも、陽子線治療やゲノム医療、ロボット手術など先進的な医療を積極的に取り入れ、より質の高いがん治療を目指していきます。

副作用が少なく、約8割が外来通院で治療しています。

2021年度に治療を受けた人のうち、約61%が公的保険を、約25%が生命保険等の先進医療特約などを利用して治療し、全体の85%以上が本人負担を軽減して治療できました。また福井県では、県民に対する治療費の助成や、嶺南の方への通院費の補助も行っていきますので、これらの制度を活用し、がんで苦しむ多くの方に当センターを利用いただければと思います。

2021年度に治療を受けた人のうち、約61%が公的保険を、約25%が生命保険等の先進医療特約などを利用して治療し、全体の85%以上が本人負担を軽減して治療できました。また福井県では、県民に対する治療費の助成や、嶺南の方への通院費の補助も行っていきますので、これらの制度を活用し、がんで苦しむ多くの方に当センターを利用いただければと思います。



福井県立病院 陽子線がん治療センター長 玉村裕保



福井県立病院 陽子線がん治療センター

〒910-8526 福井県福井市四ツ井2丁目8-1(福井県立病院内)
相談専用ダイヤル Tel. 0776-57-2981 (8:30~17:00 土日祝を除く)
https://fph.pref.fukui.lg.jp/yosisen/

